

経営比較分析表

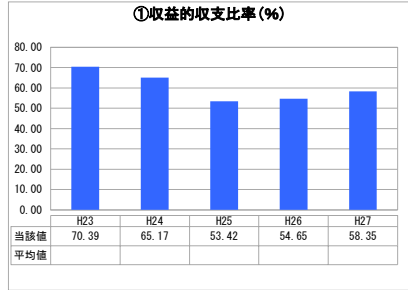
兵庫県 福崎町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	42.09	95.34

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,568	45.79	427.34
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,229	3.97	2,072.80

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



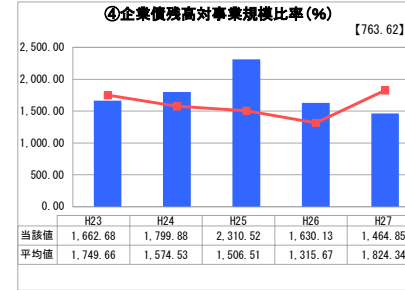
「単年度の収支」



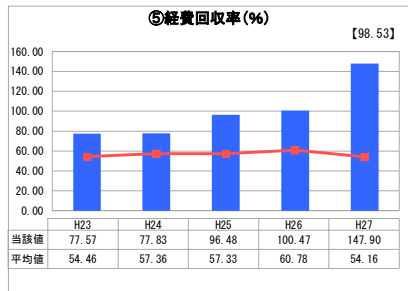
「累積欠損」



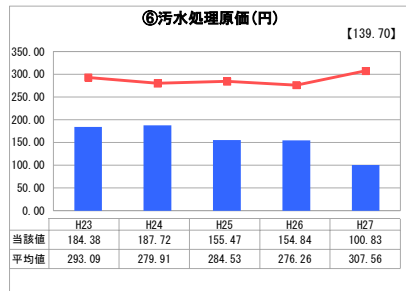
「支払能力」



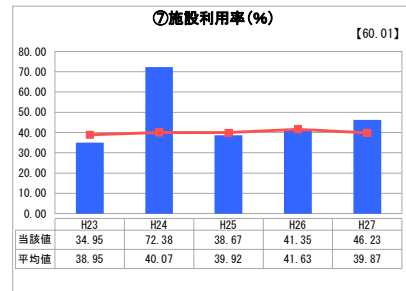
「債務残高」



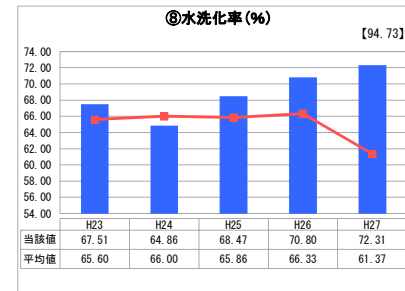
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

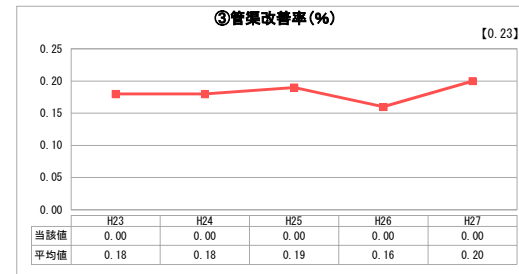
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

H27に計画区域の面整備が完了し、使用料収入が増加したことにより①収益的収支比率が3.7ポイント増となったが、資本費(地方債償還金を含む。)が年々増加し、一般会計繰入金への依存が高まっている。管渠整備の進捗状況及び今後の流入量の増を見込み、H23年度に処理場を増設した。これに伴い⑦施設の利用率が40%に低下したが、今後の接続率の向上、流入量の増加により、施設利用率は向上する見込みである。また⑧水洗化率については、類似他団体より高い率となっている。汚水処理経費については、膜処理方式の採用により効率的な稼働が図られていることから、経費を抑制できており、⑥汚水処理原価が類似他団体と比べて低く、⑤経費回収率が高い要因となっている。④企業債残高対事業規模比率については、今後も雨水整備等による借入れを継続するが、償還額が借入額を上回るため、減減する見込みである。しかしながら、今後は、H28に法適用した影響やこれに伴う一般会計の将来負担額等の状況等により変動することが想定される。

2. 老朽化の状況について

管渠については、H14から整備を開始し、処理場は、H15に工事着手し、H17.3月に供用開始した。施設は比較的新しいが、処理場の機械設備等で耐用年数が短いものについては、短期的に計画的な更新が必要である。

全体総括

H27年度で計画区域の面整備が終了し、今後は雨水整備が本格化するともに、地方債償還金の償還額が増高し、一般会計繰入金への依存が高くなる見込みである。施設はまだ新しいが、今後長期的な財政計画、長寿命化計画等を検討し、施設の更新に備える必要がある。財政計画の策定に合わせて、使用料設定の見直し等の検討も必要である。また接続率及び施設稼働率の向上に伴い、施設利用率の向上とともに、維持管理費の増高が見込まれるため、運営体制の在り方等の検討も必要になってくる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。